

すべては子どもたちの笑顔のために



# 響

## No. 6

東信教育事務所だより

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5

TEL. 0267-31-0250 (代)

FAX. 0267-31-0140

<http://www.pref.nagano.lg.jp/toshinkyou/index.html>

平成 29 年 (2017 年) 10 月 25 日 (水) 発行

### 特集「上小地区 教育課程研究協議会に学ぶ」

9月6日(水)に、平成29年度上小地区小・中学校教育課程研究協議会が開催されました。各会場での授業を通して、子どもの具体の姿から学び合うことができました。

今号では、各会場での授業の様子をお伝えします。

めりはり

道徳 (西内小学校 4年)

教材名「はるかのひまわり」(生命尊重)

#### <3観点の質的な向上の視点>

実態に合わせた資料選びや「いつかさんについて、みんなで考えたいことある？」などの発問から、児童が主体的に考える工夫が見られました。

#### <終末に見られた子どもの姿>

震災で妹を失った「いつか」の思いを考え合うことで、地震の怖さだけではなく「地震では守れない命もある。身近な人をもっと大切にしたい」と、家族や友だちの大切さや命について、自己を振り返り、考えようとする姿が見られました。

ねらい

めりはり

見とどけ

は、先生方にお伝えしたい「3観点の質的な向上の視点」にかかわる取組(工夫)です。



めりはり

国語 (傍陽小学校 4年)

「みんなはどう思う?ごんの気持ち」

#### <3観点の質的な向上の視点>

『ごんハート』というごんの心情をどうとらえたか、可視化された学習カードや板書の工夫、「ごんの一番の願いは」という視点により、友や叙述、自己との対話が位置付いていました。

#### <終末に見られた子どもの姿>

兵十にうたれてしまった第六場面の結末は、ごんにとって幸せだったのか、叙述を根拠に意見交換をする中で、自分の考えを見つめ直し、まとめようとする姿がありました。

めりはり

国語 (第一中学校 1年)

「自分を見つめて『少年の日の思い出』」

#### <3観点の質的な向上の視点>

文章を構成するさまざまな情報を「筋」として追い、整理して心情等を考察していく学習を工夫することで、生徒は文章を俯瞰し、関係づけて読み解く力をつけることができました。

#### <終末に見られた子どもの姿>

中心人物「僕」の心情が読み取れる叙述を探し、時系列に整理し、心情を考えたことで、「僕」の心情変化の契機となる叙述をとらえた姿がありました。

社会（北御牧小学校 4年）  
先人たちの苦心と努力  
～八重原用水を築いた黒澤嘉兵衛さん～  
＜3観点の質的な向上の視点＞

めりはい

①昔の道具、②水を流す工夫、③分水柵の仕組み、④完成までの過程、⑤費用や人数についてグループごとに調べて分かったことを発表し、黒板に位置付けた後、先生は「嘉兵衛さんはどんな思いでこんなことをしたのかな」と問いかけました。子どもたちは、嘉兵衛さんの働きの意味を考えていきました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

黒澤嘉兵衛が八重原用水を引くためにした工夫や苦勞を理解し、開発にかけた黒澤嘉兵衛の思いをじっくりと考える姿がありました。

社会（上田第四中学校 2年）  
地理的分野 自然災害と防災への取り組み

めりはい

＜3観点の質的な向上の視点＞

避難場所である四中の防災倉庫にある簡易トイレやテントなどの実物に触れたことや、ハザードマップの被害予想、備蓄品の数に関する資料、地区ごとの人口などの比較可能な資料が、生徒の視点をもった話し合い活動につながりました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

防災倉庫にある備蓄品と地域の人口を比べて、自分が大切に思うものの中から、避難生活に必要なものを取捨選択する姿がありました。

算数（塩田西小学校 5年）  
「分数」

ねらい

学習問題 2/3 と 3/4 どちらが大きい？  
児童の反応 （思い思いに予想を口にし）  
図にするとハッキリするよ。  
学習課題 図のどこをどう見て大小を決めたのか確かめよう。



＜3観点の質的な向上の視点＞

子どもの発見を表す図や操作を検討する場を位置付けました。検討の際、図や操作をどう見たかを語り合い、等しいが分母が異なる分数があることを児童が再発見できるようにしました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

異分母分数は、分母をそろえると、分数の大きさを比べることができました。

数学（第三中学校 2年）

ねらい

「規則性をみつけよう」

＜3観点の質的な向上の視点＞

既習事項や「関数の見方・考え方」を活用して問題解決していく力をつけることをねらいとして単元を設定しました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

白、赤、青の色紙をピラミッド形に並べた場面の中から、色紙の並び方の規則性やともなう変わる2つの数量を見つけたりして、図、表や式を使いながら、25段目を作るのに必要な青の色紙の枚数を求めようとする姿がありました。

理科（本原小学校 4年）  
「かん電池や光電池のはたらき」

ねらい

＜3観点の質的な向上の視点＞

回路の中を流れる電流のイメージについて、自分の考えを絵や図、文章などで表現する場を設け、友だちの考えとの差異点や共通点を検討することで、実験の視点が定まるとともに、自分の考えの変容を自覚することができました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

かん電池2個のつなぎ方によってモーターの回り方が変わることを見いだしました。

理科（東部中学校 3年）

めりはい

「化学変化とイオン」

＜3観点の質的な向上の視点＞

水素イオンや水酸化物イオンの数に着目してモデルを一人一人が操作したり、友と説明し合ったりする活動を取り入れるなど、具体と抽象を結び付ける活動が工夫されていました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

一人一人がイオンモデルを操作し、水溶液が酸性→中性→アルカリ性へと変化していく理由を自分なりの表現で説明する姿がありました。

図画工作（西小学校 2年）

ねらい

「つないで つるして」（造形遊び）

＜3 観点の質的な向上の視点＞

「どんなことができそう？」という問いかけに答える児童の声を拾い上げ、児童が具体物で伝える場面を設けることで、一人ひとりが活動のイメージを膨らめられる導入でした。

＜終末に見られた子どもの姿＞

活動を振り返る場面では、活動自体の楽しさを振り返るとともに、全体や部分に表れた形や色合いの面白さを改めて感じ、「もっとやりたい」と、目を輝かせる姿がありました。

音楽（依田窪南部中学校 2年）

ねらい

「美しい響きの合唱を創ろう」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

教師による「聴き比べ」をねらいで取り入れ生徒が聴き取ったことから判断したり、タブレットPCを使って自分たちの表現を見返したりする場面が効果的に設けられていました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

「ほらね、」のBの部分のクレッシェンドの仕方を追究した生徒たちが、まとめの合唱をし、「もっとこんなふうに表示したい」と新たな願いを共有し合う姿がありました。

家庭（東塩田小学校 6年）

見とどけ

「ぼく・わたしが作るよ おひるごはん」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

教師が、何を振り返ればよいか明確に示したことで、子どもは、最初に考えた献立よりも、栄養バランスのよい献立になったことについて、追究過程と共に振り返る姿がありました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

家族のために考えた1食分の献立の栄養バランスを調べ、不足している栄養グループの食品を補うことで、栄養バランスのよい献立を考えることができました。

体育（南小学校 2年）

めりは

「世界で1つのすもうで、ニヤティティ族に挑戦だ！」（体づくり運動：力試しの運動遊び）

＜3 観点の質的な向上の視点＞

動いて試す場と考えたコツを発表し合う場を交互に位置付け、子どもの意欲を掻き立てる活動の工夫がありました。また、友だち同士の関わりを促す教師の直接的な支援が光りました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

ペアで考えたすもう遊び（手押しすもう・タオル引きすもう）に勝つためのコツを、動きや言葉を使い、友だちに伝える姿が見られました。

外国語活動（柵津小学校 5年）

ねらい

「NETSU 商店街を世界に広めよう」

Hi, friends! Lesson6 What do you want?

＜3 観点の質的な向上の視点＞

伝える相手、伝える内容、伝えるときの態度を明確にしたことで、児童が目的を持って活動に取り組むことができ、「伝える」「理解する」ことの楽しさを感じられる展開となりました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

自分たちが企画した商店街を通してALTの先生方に柵津のことを知ってもらおうと、積極的にコミュニケーションを図る姿がありました。

外国語（塩田中学校 1年）

ねらい

「Unit5 学校の文化祭」

New Horizon English Course Book 1

＜3 観点の質的な向上の視点＞

授業者とALTのモデル対話から、希望献立の理由を伝えているよさに気付いて共有したことが、即興的に理由を考えて伝え合う対話活動につながりました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

給食の希望献立について、インタビュー調査する活動を行い、結果を共有しました。積極的に英語で伝えようとする姿がありました。

総合的な学習の時間（青木中学校 2年）

めりはり

「働くことの意義を考えよう」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

終末の姿につながったのは、グループでの話し合いで出された意見がホワイトボードに書かれ、可視化された友の考えを関連付けながら分析していく思考活動の充実によるものです。

＜終末に見られた子どもの姿＞

働く上で「人」のことを考えると、「お客さん」のことだと考えていた生徒が、「お客さんだけなの？」と、問いを抱き新たな追究の視点をもつ姿がありました。

生活（武石小学校 1年）

めりはり

あさがおさんのおかあさんだいさくせん

＜3 観点の質的な向上の視点＞

今まで思いを込めて育ててきたあさがおさんとの思い出作りに向け、「押し花作り・折り染め・お手紙」から自分が選んだ活動を行いました。友だちと作品を見合いながら意欲的に追究し、よりよいものにしようと浸り込んでいました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

自分たちが作った作品をみんなで見合い、友だちの作品のよさを共有し、次の時間にやりたいことへの見通しをもつ姿がありました。

特別支援（城下小学校 3年・通常学級）

ねらい

「あまりのあるわり算」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

数名の児童が登場して長椅子へ座る寸劇を通して、学習問題の理解を促しました。体を動かし、視覚的・具体的に訴えた支援により、児童は「みんなが座るには（＝あまりをどうするか）」という課題に焦点をあてることができました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

算数日記に「あまりをそのままにしないことが大事です」という、主眼に沿った記述をしたA児は、大きな声で授業終了のあいさつをしました。

特別支援（第五中学校 特別支援学級）

めりはり

「工夫してクッキーを作ろう」（自立活動）

＜3 観点の質的な向上の視点＞

試食した参観者に3種類のクッキーを「味」「食感」「香り」の観点で評価してもらう際に思考ツールを用いました。はられたシールの数を通してそれぞれのクッキーの特徴を「見える化」したことで、話し合いの視点がうまれました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

参観に来た先生方にクッキーを試食してもらったA生。「相手に聞こえる声でインタビューができました」と活動を振り返りました。

健康教育（特別活動）（浦里小学校 4年）

ねらい

「よい『立ち方』にチャレンジしよう」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

姿勢チャートを活用し、姿勢を客観的・視覚的に捉えたことで、各自の課題がより明確になり、グループでの話し合いが活発化しました。

後半は、課題を解決するために、進んで講師の助言を求める等、意欲的に追究していきました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

友と話し合い考えた姿勢改善のための体幹運動を発表すると共に、今後自分の生活の中で実践しようと自己決定する姿が見られました。

特別活動（中塩田小学校 1年）

めりはり

「なかよしあそびをしよう

～ころがしドッチボール～」

＜3 観点の質的な向上の視点＞

視覚化・操作化された板書の工夫とともに、「出し合う」「比べ合う・認め合う」「まとめる（決める）」という話し合いの流れにより、個の考えが生かされた話し合い活動となりました。

＜終末に見られた子どもの姿＞

少数意見も組み入れながら、みんなが楽しめる新しいルールを決めだそうと折り合いを付けて集団決定していこうとする姿がありました。

## 東信地区スポーツ指導者連携会議

平成29年11月17日（金）13:30～16:30 東信教育事務所

○全体会 「中学生の部活動や子どもの体力とスポーツ環境を考える」

講師 県スポーツ課教育主幹兼学校体育係長 齊藤 毅さん

- ・来年度より導入される予定の部活動指導員について
- ・県内の子どもたちの体力について
- ・次期スポーツ振興計画
- ・中体連との兼ね合い など

現状や今後の動きについてお話しいただきます。

○分散会 「子どもたちのスポーツ環境を整える」

地域や地区毎に話し合いを行います。



東信地区のスポーツ指導関係者が一堂に会し、これからの子どもたちの部活動やスポーツ環境について話し合う唯一の機会です。大勢の参加をお待ちしています。

### 社会教育

信州型CS訪問から（上田市立第五中学校）

「地域の方々のいづまい・たたずまいから、願いや思い、生き方を感じて…」

7月25日に「地域の先輩に学ぶ会」が行われました。全校生徒が静かに待つ体育館に地域の先輩方が入場されてきました。始めに小林新治校長先生から標題のお話がありました。お手玉・ギター・パン作り・ハンゲル・手話…。20以上の講座に分かれて地域の先輩から技を学びます。しかし、静かに待つ生徒の姿から「地域の先輩に学ぶ会」が地域の方々の思いに触れる機会となることを感じているようでした。



### 社会人権教育

東信地区人権教育スキルアップ講座が開催されました。

7/27（木）岡谷市蚕糸博物館・長野県男女共同参画センター

希望する先生方と市町村の人権教育担当者が集いました。今回のテーマは『女性』。岡谷の蚕糸を支えた工女さんの人権について、学習会や裁縫教室が開かれたり、栄養が考えられた食事がふるまわれたりなど、語り伝えられるイメージとは違った観点から見つめ直しました。男女共同参画社会に向けては、ジェンダーギャップの国際比較や、自治会長、PTA会長などの男女比の都道府県別ランキングなどが紹介されました。

